

八幡工高新聞

発行者：滋賀県立
八幡工業高校
新聞部
修学旅行号2

感じる大自然 3日目 ラフティング

4日目 蝦夷の絶景 洞爺湖、羊蹄山

北海道を代表するものは文化や歴史だけではない。北海道には太古から残る大きな自然がある。それを象徴するのは『洞爺湖』と『羊蹄山』だ。洞爺湖は約11万年前、火山活動によって形成されたカルデラ湖だ。この中央には『中島』という無人島が浮かび、豊か

な自然と野生動物が生息している。また、洞爺湖周辺は温泉地があり、多くの観光客が訪れる人気スポットだ。一方、羊蹄山は標高1998mにもなる独立峰で北海道南西部に位置している。その美しい円錐形が富士山に似ていることから『蝦夷富士』という

別名で呼ばれている。加えて、洞爺湖の湖畔からは美しい羊蹄山が見え、湖面に映るところも見られる。また、この2つは地理的にも近く、お互いを引き立たせる北海道ならではの絶景だ。



↑ 飛び出せ！ 大空へ
3日目ルスツ遊園地でどこまでも続く田園風景→



↑ 洞爺湖に居座る水鳥↑



↑ 洞爺湖に浮かぶ島々
バスから見た天使の梯子 ↓



↑ 余裕？ ワクワク！

北海道の大自然をまじかで体験できることは珍しい。そもそもラフティング自体を体験した者も少ない。実際、記者(西)もその人間の11人だ。緊張に胸を膨らませ、我々はインストラクターの指示の下、日本一の清流尻別川での7kmのラフティングを体験した。

9月の北海道となれば水温

も冷え、肌寒くなる。ラフティングとなれば水に濡れることは避けられない。そのことから、自前に用意した水着の上に渡されたスーツを着用する万全の体勢を行った。

インストラクターからの説

明を受け、我々はゴムボートを川岸まで運ぶ。ボートを川に浮かべ、愉快的仲間たちは下流までの小さな冒険を体験した。記者(西)はボートの上から撮影に挑みたかったが・・・。カメラは稲畑先生に預けた。



↑ 穏やかにボートを漕いでいく

スリル満点 ↓

死闘！ ラフティングで挑む水上バトル

上流から約30分ほど、インストラクターの掛け声と共にオールを漕ぎ続け、流れが穏やかな場所に着く。しかし、多数のボートが20メートル間隔でいる中、事件が起こる。他のボートからオールで意図的に水を掛ける事案が発生。これに対して記者(西)の同乗するボートも反撃を開始。約1時間ほどに及ぶ、熾烈な水上バトルが幕を上げた。

では、その戦いの一部始終を説明しよう。単純にオールで水面を叩くだけでは狙いは

定まらない。オールを水面に侵入させる角度や位置が重要となる。戦いの中では、各ボートに同乗するインストラクターの技術が圧倒的だった。その巧みな腕前で生徒達は翻弄され、スーツは濡れる羽目になる。記者(西)は眼鏡に水滴が着くことで視界がぼやけ、更には同乗する仲間からも水を掛けられる始末。幸いにも水温が適温だったことで記者(西)の不満はなかった。その後、散発的な戦いが続き、下流まで残り僅



かとなる。そこで最後の楽しみということでボートから降りて川の中に飛び込むことが出来た。残念ながら着替えの少ない記者(西)は飛び込むことを断念した。しかし、飛び込んだ人によると、「冷たくて気持ちいい」という声があった。これを最後にラフティングを終えることになる。